

奈良医大 Nara Medical University newsletter

キャンパスだより

2019
vol.9

奈良県立医科大学に関する様々な情報を、地域のみなさまにお届けします



写真提供：橿原考古学研究所

Topics

- ・新キャンパス整備の取り組みについて
- ・MBT（医学を基礎とするまちづくり）の取り組み②
- ・県民の健康長寿に関する研究成果の紹介
- ・奈良県立医科大学附属病院乳腺センター開設のご案内
- ・各診療科の紹介〈循環器内科〉

Information

- ・患者・家族支援室の紹介

新キャンパス整備の取り組みについて

新キャンパス整備については、以前「キャンパスだより」vol.1・7において、「整備工程を「先行整備」「継続整備」に分けること、「先行整備」では教養教育部門・看護学科（医学科1年・看護学科1年～4年）が学ぶ施設を整備すること、2024年度中の竣工を目指すこと、などをお知らせしました。

その後の進捗状況と今後の予定について、以下にご紹介いたします。

現在の進捗状況

①新キャンパス整備基本計画書

新キャンパスにおける整備方針や整備内容を具現化するために、新キャンパス整備基本計画書をとりました。

整備基本計画書のとりまとめにあたりまして、各教育協議会や学生の皆様よりご意見をいただきながら、キャンパス整備検討委員会等で新キャンパスにおける整備方針や整備内容を検討し、動線・ゾーニング・インフラ・建物構成等をとりました。今後、これをもとに基本設計・実施設計にてより具体化してまいります。

整備イメージ



ゾーニング計画図



② 地区計画協議

新キャンパス予定地は市街化調整区域に位置しており、市街化を抑制する区域となっております。

そこで、新キャンパスを整備するためには、都市計画法に基づいた地区計画の決定が必要となります。現在は地区計画の素案を作成し関係機関である奈良県や橿原市、また地元の皆様と協議を重ねて合意形成を図っているところです。地区計画の決定が新キャンパス整備の大切な一歩となります。

③ 土壌汚染物質除去

2016年度に行った土壌調査で、11区画において鉛・水銀などの土壌汚染物質が検出されました。これらは健康被害が生じる恐れはないものでしたが、2018年度には汚染土壌の掘削除去作業を実施し、除去跡地に新しい土を搬入しました。このことにより新キャンパス予定地は汚染のない安全な土地となりました。

④ ボーリング調査

新キャンパスに建物を建てる際には、建物の基礎の構造を検討する必要があるため、地層の構成や地盤の特性を調べ、建物を支持する支持基盤を確認する調査を行いました。

今後の予定

① 地区計画決定

地区計画決定にあたっては、住民の皆様に対する公告・縦覧や橿原市都市計画審議会審議を経て、橿原市が地区計画決定を行うこととなります。

今後も引き続き橿原市と協議しながら、併せて地元の皆様に対しまして説明をさせていただきながら、地区計画決定を目指します。

② 埋蔵文化財発掘調査

周知の埋蔵文化財包蔵地である新キャンパス予定地で建物を建築いたしますので、文化財保護法に基づき埋蔵文化財発掘調査を行う必要があります。

埋蔵文化財発掘調査は2019年度から3年かけて行う予定です。

発掘調査にあたりましては、十分注意を払い作業を進めてまいりますので、住民の皆様には何卒ご理解・ご協力よろしくお願いたします。

埋蔵文化財発掘調査予定箇所



MBT（医学を基礎とするまちづくり）の取り組み②

本学では、MBT構想（Medicine Based Town）を展開しています。これは、医師や看護師等の持つ様々な医学的知識を、産業やまちづくりへ活用するものです。

医学的な知識は患者さんの治療に活かすほかに、医学的に正しい製品づくりや住まいにも応用することができます。さらに、これらが有機的に集まることで、私たちの生活基盤となるまちづくりにつなげることもできます。

この取り組みは、本学がMBTを通じて、医学に基づいた社会貢献を目指すのがねらいです。

奈良医大発ベンチャー企業を認定！

このMBT構想をより現実のものとするため学内にMBT研究所を置くとともに、本学第一号の大学発ベンチャーである「MBTリンク」を昨年10月に認定しました。大学発ベンチャーとは、大学の教員や学生が研究成果を事業化するための企業です。

同社は、MBT研究所の梅田智広研究教授が代表取締役を務め、高齢者らの健康データや気象データを収集して分析し、見守り情報を離れて暮らす家族らにスマートフォンアプリで送ることなどの事業を進めています。

奈良から全国へ展開

MBTの活動は県内にとどまらず全国に展開しています。

本学は栃木県高根沢町等とMBTを通じて「健康で、安全に、安心して暮らせる町」を実現するため連携協定を締結しています。

今後、協定に基づき独居高齢者の見守り、生活習慣病予防セルフチェック、健康体操・ウォーキングの3分野で、それぞれの知見をもちより新たなモデル事業を立案し、実施する予定です。

また、兵庫県三木市等とも共同で総務省のサービス創出事業を進めています。

高齢化が進む団地において、高血圧性疾患への対策として、血圧に影響する情報（脈拍・活動量等）をIOTで網羅的・継続的に取得・分析を行い、保健指導や遠隔医療等に活用することを目指すものです。

ヘルスケアサービスの実証実験を開始しました

本学は、MBTリンクや近鉄グループホールディングスとともに、近鉄沿線でヘルスケアサービス実証実験を本年4月より行っています。

IOTを駆使して腕時計型ウェアラブル端末などにより、一人ひとりのバイタルデー

タや生活環境データを収集・分析し、医学的根拠のある生活アドバイスを提供する「パーソナル健康サービス」や、家族等にバイタルデータの異常を伝える「異常値通知サービス」を提供します。さらに、生活アドバイスを即した料理レシピを提供し、食材を購入し易いようネットスーパーにもリンクするサービスも進めます。

実証実験のあと、その結果や効果を検証したうえで、新たなヘルスケアサービスとして実用化を進めていきたいと考えています。



腕時計型
ウェアラブル端末



実証実験説明会

県民の健康長寿に関する研究成果の紹介

本学では、特色ある取り組みとして、奈良県下全域の一人を対象として、県民の健康長寿を維持させる要因を多方面から調査、分析する研究をおこなっています。この研究を「奈良県健康長寿コホート研究」と名づけ、3つのテーマにわたって実施しています。

成果発表をおこなった健康長寿に関するコホート研究



「奈良県における循環器医療の質の向上と
循環器病地域包括ケア構築に資する実態調査」
研究代表者・演者：循環器内科学 教授 斎藤能彦



「手術後機能障害の発生と
その関連因子についてのコホート研究」
研究代表者：麻酔科学 教授 川口昌彦
演者：附属病院中央手術部 助教 位田みつる

「温度・光曝露が健康に及ぼす影響に関する 前向きコホート研究」

研究代表者・演者：疫学・予防医学 教授 佐伯圭吾



このたび、その研究成果を地域のみならず紹介するため、去る2月16日(日)に橿原文化会館で開催した公開講座「くらしと医学」において、研究成果の発表を行いました。

まず、斎藤教授より、本学を中心に奈良県内の心疾患の実態調査をおこなった結果から、心不全は高齢者に多い病気で入院を繰り返すことにより日常生活の動作や認知機能の低下が進むこと、ただ、患者自身や介助者によるケアにより入院を予防できること、また、あらかじめ終末期を含めた今後望む治療を家族等で話し合うことが大切であることを発表しました。

つぎに、位田助教より、手術は、病変を取り除くことや身体機能を維持、改善させることを目的におこなわれますが、なかには手術後に身体機能が悪化することもあり、これには手術前の患者さんの状態が大きく関係していることが分かってきました。そのため、手術前の状態を良くする取り組みにより、手術後の回復を早めることが注目されていると紹介しました。

最後に、佐伯教授より、奈良県内の三千人以上を対象として温度・光環境と健康状態を測定、調査をおこなった結果から、居室の室温が低いと同時測定した血圧が高いこと、夜間の寝室の照度が高い人は睡眠障害のリスク



研究成果発表の様子

が高いという関連性を発表しました。当日は、多数の方のご参加をいただき、健康への意識の高さを感じることができました。

今後、これらの研究を続け、地域の住民のみならず健康長寿に役立つ情報を発信していきたいと考えています。

奈良県立医科大学附属病院乳腺センター開設のご案内

本邦における乳がんの現状

近年、わが国における乳がんの増加は著しく、日本人女性の11人に1人が乳がんにかかるといわれています。そして、30～60歳の女性の罹患率は第1位です。乳がん発生の予防策は今のところありませんが、早期発見こそが最善の策であり、たとえ乳がんと診断されても、早期に見つけて治療すれば、乳がんは完治できる可能性が高いがんです。また、最近の乳がん診療の進歩は目覚ましく、特に薬物治療においては、新しい薬が次々と使えるようになって、治療の方法が複雑化しています。そのため、乳がんの治療には専門性の高い医療が必要とされています。このような背景から、平成30年11月に奈良県立医科大学附属病院内に乳腺センターが開設されました。

診療内容

奈良県立医科大学附属病院乳腺センターは、乳がんの診断・治療を主に行うほか、遺伝性乳がん卵巣がん症候群などの遺伝性疾患の相談も行っています。手術については、通常の乳がんの手術の他にも、形成外科とともに乳房再建術を積極的に行っています。また、より身体に負担をかけない低侵襲手術として、できるだけ小さな傷で内視鏡補助下に

手術を行う、鏡視下乳房切除術にも取り組んでいます。当センターには、乳腺外科専門医、乳房再建用エキスパンダー／インプラント治療責任医師の資格を持つ形成外科医、日本内視鏡外科学会技術認定医、腫瘍内科医、放射線治療専門医、放射線診断医、病理診断医、緩和医療専門医、マンモグラフィ撮影診療認定放射線技師、がん化学療法・緩和ケア・リンパ浮腫などの専門看護師が所属しており、緊密に連携を取りながら、チーム医療として、患者さんお一人お一人に最善と思われる診療を行っています。



乳腺センター入口



乳腺エコー

対象疾患

主に乳がんを対象としていますが、葉状腫瘍などの手術適応となる可能性のある良性腫瘍の診療も行っています。その他、乳腺を摘出する必要性のある遺伝性疾患も対象としていきます。

受信される方へ

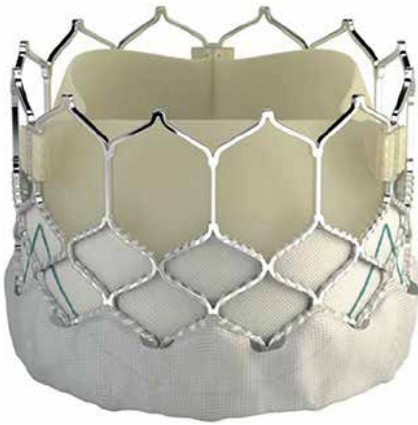
1. 外来診療では、3名の常勤医師（2名は女性医師）の他、2名の非常勤医師が中心となって診療を担当いたします。
2. 乳腺センターはかかりつけ医からの紹介を原則としています。受診に際しては、できるだけ医師からの紹介状をお持ちください。

各診療科の紹介〈循環器内科〉

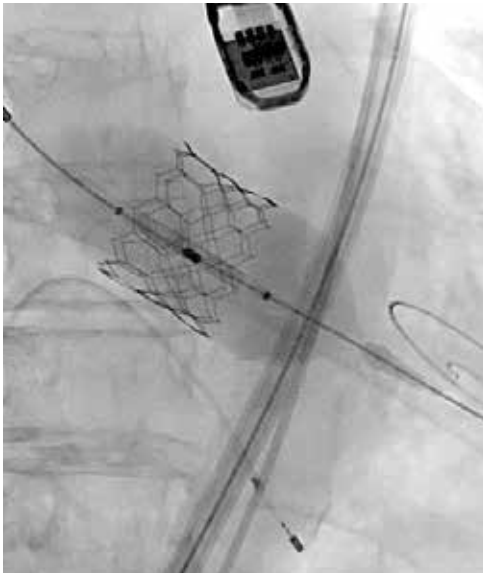
大動脈弁狭窄症に対する新しい治療TAVI

奈良県立医科大学では、2018年4月より重症の大動脈弁狭窄症に対して経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI）を開始しています。「TAVI」とは「Transcatheter Aortic Valve Implantation」の略語で、胸を開かず、心臓が動いている状態で、カテーテルを使って人工弁を患者さんの心臓に留置する治療です。

大動脈弁狭窄症とは、酸素を含んだ血液を全身へと送り出すのに重要な役割を果たす大動脈弁が、加齢による変化や動脈硬化などが原因で硬くなることで開きにくくなり、十分な量の血液が心臓から全身に送り出されなくなる病気です。重症になると胸痛、息



TAVIで使用する人工弁



経大腿アプローチでのTAVI

切れ、失神などの症状が出現し、数年で死に到る進行性の病気です。従来、外科的に人工弁を留置する開胸手術が唯一の延命効果のある治療とされてきましたが、この病気は高齢者に多く、年齢や合併症、虚弱などのため手術の危険性が高くなり、手術を断念された患者さんが少なくありませんでした。しかし、TAVIは開胸手術と同じような治療効果を示し、体への負担も少ないため手術の危険性が高い患者さんでも治療が可能です。現在、TAVIは世界中で30万人以上の患者さんに、日本でも1万5千人以上の患者さんに行われています。

TAVIは手術台に血管X線装置を組み合わせたハイブリット手術室で行われます。治療には二つのアプローチがあり、ひとつは

太ももの付け根の血管（大腿動脈）から挿入する「経大腿アプローチ」でほとんどの患者さんがこの方法で実施されます。しかし、足の血管径が細すぎたり、蛇行が強い場合などで、カテーテルを挿入することができない場合、肋骨の間を小さく切開し、心臓の先端（心尖部）から直接カテーテルを挿入する「経心尖アプローチ」で治療を行います。

大動脈弁狭窄症は、聴診での心雑音でその存在を疑い、超音波検査で確定診断を行います。高齢や虚弱のため、これまでは開胸手術が受けられなかった方でもTAVI治療は適応となる場合があります。かかりつけの先生に診察していただき当院循環器内科へご相談ください。



TAVI治療風景

奈良県立医科大学附属病院 患者・家族支援室の紹介

奈良県立医科大学附属病院では、患者さんやそのご家族と医療従事者間で起きる医療に関する様々な疑問、悩み等についての相談部署として、平成24年度に患者・家族支援室を設置し、医療対話推進者を配置しています。

医療対話推進者は、相談者（患者さん・ご家族）と医療従事者・病院職員との対話を促進することで様々な問題を整理し、お互いの信頼関係を築いて、安心して医療を受けていただくことを支援します。

業務内容

奈良県立医科大学附属病院で受けた医療や療養に関する悩みや疑問等の相談



医療者のコミュニケーション能力向上のための取り組み

より安心で安全な医療を提供するためには、患者さん・ご家族と医療従事者間のコミュニケーション、また、医療従事者間のコミュニケーションが重要です。

医療従事者が、患者さんとそのご家族との良好な関係を築くためには、コミュニケーション能力の向上が不可欠です。

患者・家族支援室の医療対話推進者は、病院職員向けの研修や医学科学生への講義に参加して、医療現場におけるコミュニケーションの重要性について、病院職員や将来の医師である学生が十分に認識し、理解を深めるための手助けをしています。



「奈良医大キャンパスだより」の内容に関する問い合わせやご意見等ございましたら、右記までご連絡ください。

公立大学法人奈良県立医科大学 法人企画部 キャンパス整備推進室
〒634-8521 奈良県橿原市四条町 840
TEL 0744-22-3051 (内線 2801, 2804)
Mail kihonkoso@naramed-u.ac.jp